

マスクの細菌 児童が研究

同女大で結果発表 学生らと連携、実験

同志社女子大の研究
者や学生から助言を受
けながら、マスクに付
着した細菌などをミ
マに研究した子ども
ちの結果発表会が5
日、京都市上京区の同
大学今出川キャンパス
で開かれた。



子どもたちがマスクに付着した細菌の観察実験の結果などを報告した会場(京都市上京区・同志社女子大今出川キャンパス)

発表会は、教科書や

教材を出版する新興出版社啓林館(大阪市)が、小学生の課題発見や思考力の育成を目的に開くイベントの一環。大阪府内の小学4～6年10人は昨年4月から、同大学で教師教育を専門とする大黒孝文特任教授やゼミの学生と連携し、マスクを使った実験などに取り組んできた。

会場では、子どもたちが、大阪府内の小学生211人を対象に実施したアンケートで、約7割が不織布マスクを使っていたことを報告した。また、マスクに付いた細菌を採取した実験では、消毒用アルコールをマスクに噴射すると最大で99%が殺菌されたことも紹介した。(長谷川祐太)